ホイールをフロント21、リア18にすることでナローなスタイルを作り出し、それに合わせて各ディテールも極限までナローに仕上げた。

SURESHOT

1966 EARLY SHOVEL

文＝及川壮一 text by SOUICHI OIKAWA　写真＝伊藤潤一郎 photographs by JUNICHIRO ITO
取材協力＝シュアショット phone 043-445-0077 http://www.sureshot.jp/

カスタマーからの「お任せ」というオーダーほどビルダーにとって名誉なことはない。そこには技術やセンスにおける「信頼」というものが確実に存在するからこそ成り立つのであり、プロビルダーとしておのずと気合いが入るというものだ。このアーリーショベルをベースにしたチョッパーも、シュアショットが「お任せ」でオーダーを受けて製作したもので、ビルダー相川拓也いわく「損得勘定を抜きにしてトコトン好きに作り込んだ」と言う。それだけに一見シンプルながらもディテールの凝った作り込みが見所で、ビルダー相川の持てるアイディアとセンスが随所に遺憾なく発揮されている。

ヴィンテージのスプリンガーをベースにしたフロントエンドやオイルタンクを加工して内側に入れたマフラーによる極限ともいえるナローなスタイル。そして水平デザインのマフラーに合わせたタンクやフレームのガセットなど、書き出したらキリがないこれらの地道な作業の集積があってこそ生み出された一台……創り手のセンスと技を示す秀作である。

❶スポーツスターヒンジのデザインを合わせたかのようなワンオフタンク。ロコガレージ STUDIO製作。❷ベースとなったアーリーショベルは、オーリーズバルルブのオプションを装着、オイルタンクを加工し内側に入れたマフラーに接続。フランジが固定したサイレンサーは脱着可能。❸このようなリア周辺はリジッドとフロント周辺はワンオフのナローなデザイン。フロントのオフセットに合わせてホイールも前後ともワンオフとのこと。❹プライマリーベルトにワンオフのベルトコントロールキット。❺シートはSTUDIO WORKS製で、シートスプリングを水平にマウントするための特殊なリンケージを製作したという。